

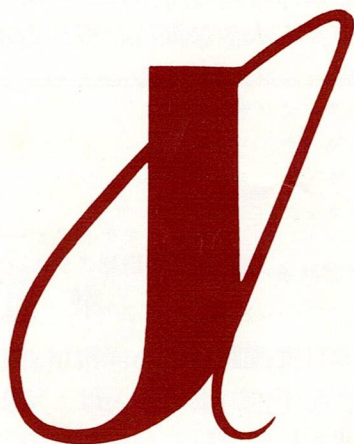
第 2 回

文化庁助成

日本アマチュアオーケストラ

関東甲信越クリニック

1977年7月24日(日)12時
市川市民会館・市川市庁舎



主 催 日本アマチュアオーケストラ連盟
共 催 市川市教育委員会・市川交響楽団協会・千葉交響楽団協会
後 援 文化庁・千葉県教育委員会・千葉県音楽振興協議会



クリニック開催にあたって

日本アマチュアオーケストラ連盟
理事長 神野 太郎

本連盟は発足以来、アマチュアオーケストラフェスティバルや巡回音楽教室等の活動を通じて大きな成果をあげてきましたが、各アマチュアオーケストラの根本的な又共通の悩みである技術の向上についての具体策にまで迫ることのできないうらみがありました。確かにフェスティバル開催の折には中央の一流講師のレッスンを受けることはできましたが、それはあくまでフェスティバルコンサートの為のレッスンであって根本的な奏法や、基礎的な問題にまで深める余裕も時間もないというのが実情でありました。

そこで連盟として第三の事業であるクリニックを企画致しました。現在のアマオケの状況からすれば、各セクション中、弦楽五部に焦点を合わせ、各パート一名の講師の指導、ディスカッション、質疑応答、合奏等を通じ、より各団の交流も深めようというものであります。殊にこの事業の特色は、各ブロックごとに開催するという点で、このクリニックがスムーズに運営できれば、将来フェスティバルの方向も何らかの新しい型が打ち出されてくるであろう期待が持てます。

第一回は豊橋で行われましたが、第二回を担当である市川交響楽団の所在地市川市で願います事になりました。関東ブロックの方々に大きな期待を寄せる次第です。



日本アマチュアオーケストラ連盟
関東甲信越クリニック委員長

泰道 三八

各アマチュアオーケストラ代表の皆様、本日は遠路わざわざ市川までお出で下さいまして、オーケストラの技術向上のためにご研さん下さいますことは、ホスト役として嬉しい限りです。最高の先生方を講師としてお迎えしたクリニックですので、さぞ収穫の多い催しになると存じます。

日本の音楽文化発展に大きな存在であります各地域のアマチュアオーケストラ活動が、円滑に運営され技術が向上されます事は、それだけ良い演奏が行われることになり、純音楽の普及啓蒙は勿論、日本国民全体にもよい感化を及ぼし、健全な心情育成を必要とする青少年には大きな効果を与える行事なのであります。この意義ある第2回オーケストラ・クリニックを市川で開催させて戴き、市川交響楽団を代表して深く感謝申し上げます。誠意をもって準備した積りですが、不行届きの点は悪らざるお赦し下さいまして、今日の会を、明日への飛躍の場にして戴きますよう御祈り致します。

終りに、ご協力下さいました文化庁を初め、千葉県教委、市川市教委、協賛者、役員の皆様方に厚く御礼を申し上げ、ご挨拶と致します。

日 程

テキスト チャイコフスキー作曲「弦楽セレナーデ」第1楽章

講師	第1バイオリン	巖本真理	巖本弦楽四重奏団主宰
	第2バイオリン	友田啓明	元日フィル・読響・現巖本四重奏
	ビオラ	白柳昇二	元N響・東響・ABC響・現静岡大教授
	チェロ	黒沼俊夫	元ラモー四重奏・日フィル・現巖本四重奏
	ベース	江口朝彦	前N響・現芸大助教授・桐朋大講師
	指揮	中館輝厚	N響・国立音大講師

12:00~12:25 開 会 式……………ホール

開式のことば

主催者挨拶 クリニック委員長

本部理事長

来賓挨拶 文化庁長官

千葉県教育長

市川市教育長

市川市長

講師紹介

出席楽団紹介

開会宣言

日程会場説明

12:30~14:00

グループ研修

第1バイオリン・グループ ホール

第2バイオリン・グループ 第2会議室

ビオラ・グループ 市庁舎第1・第2会議室

チェロ・グループ 2階ロビー

ベース・グループ 第1会議室

14:00~14:20

休 憩 (飲料物配布)

14:20~15:40

グループ研修……………前時と同室

15:40~16:00

休 憩 (移 動)

16:00~17:00

総合研修……………ホール

合 奏

17:00~17:15

閉 会 式……………ホール

開式のことば

主催者挨拶

講師への謝辞

閉式のことば

17:15~17:30

記念撮影……………ホール

17:30~19:00

懇 親 会……………第2会議室

19:00

終 了 解 散

第2回日本アマチュアオーケストラ関東甲信越クリニック参加予定者

第1バイオリン (19名)

金 指 和 哉 (茨木交響楽団)
竹 沢 勤 ()
松 浦 正 子 (土浦交響楽団)
中 本 明 子 (鎌倉交響楽団)
塚 本 卯太郎 (銚子市民交響楽団)
伊 藤 朝 子 (埼玉交響楽団)
中 谷 いづみ ()
片 山 高 男 ()
川 崎 真 砂 ()
平 野 浩 一 (千葉市管弦楽団)
安 田 妙 子 (習志野フィルハーモニー管弦楽団)
田 島 恵 樹 ()
三 原 明 (市響ジュニアオーケストラ)
小 川 和 美 (市川交響楽団)
石 井 久 雄 ()
二 宮 伸 雄 ()
永 田 匡 ()
吉 岡 一 郎 ()
福 井 康 祐 ()

第2バイオリン (13名)

桑 田 晶 (土浦交響楽団)
家 入 蒼生夫 (栃木県交響楽団)
飯 沼 信 夫 ()
太 田 英 夫 (栃木フィルハーモニー交響楽団)
深 堀 浩 子 (鎌倉交響楽団)
加 藤 純 郎 (千葉市管弦楽団)
柴 崎 清 (埼玉交響楽団)
多 田 芳 雄 ()
平 井 隆 博 (山梨交響楽団)
中 森 博 子 (市響ジュニアオーケストラ)
福 原 祥 子 (市川交響楽団)
吉 川 多津子 ()
村 田 美千子 ()

ビオラ (11名)

秋 山 俊 行 (茨木交響楽団)
山 上 純 司 ()
渡 辺 敏 夫 (栃木県交響楽団)
伊 藤 康 平 (埼玉交響楽団)
高 田 穆 ()
石 川 達 夫 (千葉市管弦楽団)
星 乘 昭 (市川交響楽団)
大豆生田 稔 ()

鶴 島 章 子 (市川交響楽団)
齊 藤 十一郎 ()
横 田 行 雄 ()

チエロ (10名)

依 田 龍 彦 (千葉市管弦楽団)
花 村 義 久 ()
内 山 栄 治 (習志野フィルハーモニー管弦楽団)
川 崎 昌 子 (茨城交響楽団)
田久保 裕 一 (前原ウインドミルオーケストラ)
福 原 耕 二 (市川交響楽団)
横 田 朝 之 ()
小 坂 克 志 ()
中 沢 健 ()
山 口 勝 規 ()

コントラバス (9名)

若 林 孝 幸 (栃木フィルハーモニー交響楽団)
津 田 洋 美 ()
小 北 篤 (習志野フィルハーモニー管弦楽団)
山 本 淳 (千葉市管弦楽団)
松 井 淳 一 (埼玉交響楽団)
牧 野 一 男 (市川交響楽団)
飛 田 正 ()
高 柳 亘 宏 ()
村 上 信 乃 ()

その他参加者

亀 山 絹 子 (八千代交響楽団)
白 沢 武 (長野市交響楽団)
田 中 英 明 (目黒区民交響楽団)
手 島 康 彰 (新宿フィルハーモニー管弦楽団)
服 部 驍 (習志野フィルハーモニー管弦楽団)
福 原 豊 雄 (千葉市管弦楽団)
水 越 善 三 (茨木交響楽団)
水 越 久 夫 (栃木交響楽団)
宮 野 敦 (前原ウインドミルオーケストラ)
守 谷 弘 (町田市民交響楽団)

新潟交響楽団・戸田市民オーケストラ演奏会のため欠席

講師紹介

巖本 真理 (いわもと まり)

小野アンナに師事、12才で音楽コンクールに優勝、以後ソリストとして活躍。1954年より室内楽にも足を踏み入れて巖本ピアノトリオ（巖本真理・黒沼俊夫・井口基成、後にピアノは伊達純・坪田昭三と変る）を結成し、1964年より巖本真理弦楽四重奏団を組織、現在に至る。

友田 啓明 (ともだ よしあき)

桐朋短大卒、鷺見二郎・岩淵竜太郎に師事し、卒業後、日本フィルハーモニー・読売日響を経て巖本真理四重奏団に参加、現在に至る。

白柳 昇二 (しろやなぎ しょうじ)

バイオリンをメンチンスキー、ピオラを井上武雄・河野俊達の両氏に師事。昭和32年芸大卒、海野義雄らとアカデミー弦楽四重奏団を組織デビュー。その後N響を経て37年に東京交響楽団ピオラ首席奏者。この間指揮法を山田一雄及びアルヴェド・ヤンソンに師事し、39年芸大大学院指揮科に入学、42年修了、現在まで協演した主なオーケストラ及びオペラは東響・ABC響・ロイヤルフィル・オーケストラサファイヤ・イエナ市立管弦楽団・藤原歌劇団等、現在静岡大学教授。および浜松交響楽団音楽監督。

黒沼 俊夫 (くろぬま としお)

東京音楽学校（現東京芸大）卒、彰城昌平・ロマン、デュクソンに師事、ラモー四重奏団、日本フィルを経て巖本真理四重奏団に参加現在に至る。

江口 朝彦 (えぐち あさひこ)

市川交響楽団出身者で、昭和31年東京芸大卒、今村清一に師事し、N響に入団。後にチェコスロバキアのプラハ音楽院に留学、プラハ市交響楽団にも1年間在籍。帰国後N響に復帰する。41年にリサイタルも行い51年にN響退団。昨年、スメタナカルテット来日時にシューベルトの「ます」でも共演した程の大家であるが、現在東京芸大助教授や桐朋大講師で後輩の指導に当る。

中館 輝厚 (なかだて てるあつ)

国立音大作曲科で島岡讓・高田三郎に師事。39年同大学専攻科を卒業、43年に渡欧。ウィーン音楽院指揮科に入学。主任教授コスリック博士に指揮法及びコレペティツイオンを師事。46年同院を卒業、その間3回にわたり、ウィーン・コンツェルト・ハウスで音楽院管弦楽団を指揮。46年西ドイツ・ブラウンシュヴァイク市の国立歌劇場と契約し、2年間同劇場の指揮者・コレペティトアとして活躍。

48年5月帰国、N響指揮研究員となりながら、国立音大の講師もつとめ現在に至る。48年9月NHK主催イタリアオペラ公演の副指揮・50年「若い芽のコンサート」「N響プロムナード・コンサート」でも指揮をし好評を博す。

参加楽団名

山梨交響楽団・長野市交響楽団・新潟交響楽団・茨城交響楽団・土浦交響楽団
栃木県交響楽団・栃木フィルハーモニー交響楽団・埼玉交響楽団・戸田市民オーケストラ
鎌倉交響楽団・銚子市民交響楽団・習志野フィルハーモニー管弦楽団・八千代交響楽団
千葉市管弦楽団・前原ウインドミルオーケストラ・市響ジュニアオーケストラ・市川交響楽団
新宿フィルハーモニー管弦楽団・町田市民管弦楽団・目黒区民交響楽団

役 員 表

関東甲信越クリニック委員長	泰 道 三 八	
アマオケ連盟本部理事長	神 野 太 郎	
〃 副理事長	村 上 正 治	
〃 運営委員長	河 合 彦 一	
運営委員	太 田 幸 市	
関東甲信越クリニック実行委員会		
実行委員長	村 上 正 治	(市川交響楽団協会理事長)
実行副委員長	熊 谷 信 昭	(〃 事務局長)
実行委員	今 井 正	(千葉県教育長)
〃	川 崎 千 春	(京成電鉄社長)
〃	岸 本 義 一	(錦野印刷社長)
〃	古 賀 米 吉	(江戸川を守る会々長)
〃	渋谷 寿 光	(国体名誉審判長)
〃	杉 本 郁 太 郎	(ニューナラヤ会長)
〃	鈴木 忠 兵 衛	(市川市長)
〃	水 越 善 三	(茨城交響楽団事務局長)
〃	村 岡 元 一	(市川市商工会議所会頭)
監 事	富 田 英 夫	(市川市教育長)
	村 上 信 乃	(市響相談役)

クリニック事務局

局長	伊 藤 順 夫	(本部広報委員長・市響事務局次長)
	横 田 行 雄	(市響幹事長・クリニック準備担当)
次長	桑 村 益 夫	(市響幹事・クリニック会場担当)
	服 部 驍	(習フイル事務局長)
	天 野 晶 吉	(市響相談役・NHK洋楽ディレクター)

事務局チーフ

総 務	星 乘 昭	会場受付	越 塚 康 史
経 理	横 田 朝 之	案内	池 田 八 十 二
	松 丸 悟	接待	高 橋 圓
企画広報	牧 野 一 男	ステージ・演奏	半 藤 嗣 人
演奏技術	二 宮 伸 雄	記録・放送	竹 中 靖

— その 他 協 賛 者 —

青山 幸高 (日本馬匹輸送自動車社長)	下倉 益太郎 (内外バイオリンピアノ社々長)
金子 金平 (タンネ商事社長)	川上 紀一 (千葉県知事)
泰道 照山 (千葉交響楽団協会々長)	友納 武人 (国会議員)
片岡 直令 (全日警会長)	葩島 正次 (市川東葛信用金庫理事長)
村岡 信一 (村岡ゴム会長)	福井 通祐 (福井電化工業社長)
小沢 幸三 (小沢眼鏡社長)	